

平成23年度 学校法人大阪産業大学 事業計画

学園を取り巻く経営環境は、日本経済の低迷、少子化による就学人口の減少、各種補助金の減額、大学間競争の激化等により、一層厳しさを増しています。加えて、長引く経済不況が学費負担者に大きな打撃を与えており、離学者も増加傾向にあります。

そのような状況を踏まえて「透明性とコンプライアンスの堅持」を基本原則に、健全な学校経営を実現するため、種々の財務改善対策を講じ、平成25年度までに段階的に収益改善を目指すこととしております。

そして、今年度は、固定費の多い管理経費を含めた経費の削減を始めとした効率的な予算編成により、現行制度の改善や教育サービスのより一層の充実を目指すことにより、時代の要請に応え得る学園改革を推し進めていきます。

平成23年度の学園全体にわたる事業計画の概要は、次のとおりです。

まず、財政基盤の確保といった観点から、魅力ある学園の構築を図り、入学志願者及び入学者の確保に努めます。また、教育・研究の充実に資する文部科学省及び関係団体が所管する競争的補助金等の外部資金獲得に向け、教員の意識高揚を図るとともに、外部資金獲得を支援する事務組織の編成を検討します。さらに、保有資産の有効活用についても検討します。

なお、離学者については、原因を把握・分析し、その低減を図ります。

人件費については、総支出の中で大きなウェイトを占め、その動向が学園運営に大きな影響を与えるとともに、財政硬直化の要因ともなることから、労働意欲の高揚策を進めつつ、給与の適正化についても配意します。なお、「みなし定年制（早期退職優遇制度）」についても引き続き検討を行います。

人事計画について、教員は、大学設置基準及び学科基幹科目等を踏まえて補充人事を行い、事務職員は、業務内容により、その雇用形態を決定した上で、補充人事を行うものとし、業務負担の増加等については、業務改善、合理化、委託等で補うこととします。

経常費については、事業の徹底した見直しとともに、経常費節約のための様々な工夫を行います。特に外国人留学生の授業料減免に対する補助金撤廃に伴い、外国人留学生の授業料減免率について見直すとともに、より効果的な奨学金制度を検討します。また、スポーツ振興関係経費についても実績を検証し、有効活用を促進します。

校舎等の整備については、まず、大学キャンパスの近隣周辺で学園の将来計画に必要な法人用地の買収を検討します。また、大学では、総合図書館の書架のスペースを確保するため、4階北側に電動書架を設置するとともに、中央及び東部キャンパスにおける公共下水接続工事を行います。さらに、デザイン工学部開設に伴い、13号館の改修工事も行います。

なお、学生会館については、学生主体の修学環境づくりを念頭において、より良い学生会館が早期に建設できるよう「大学キャンパス整備計画委員会」を設置し、具体的な整備計画の検討を開始します。

産大中・高校においては、平成19年度から6年計画で進めている耐震補強工事を引き続き行います。

桐蔭中・高校においては、学校設置基準上、必要な施設である体育館の新築工事を行います。

生駒キャンパス施設の改修及び大学・短大キャンパスにおける校舎の耐震補強工事等については、中長期的なキャンパス整備計画に基づき、将来の全体キャンパス像を想定しながら、具体的な検討を進めます。

以上が、平成23年度事業計画の基本的な考え方ですが、各機関別の具体的な学部・学科の増設等変更計画、教育・研究上の取り組み、学生・生徒等の募集計画、校地・校舎等整備計画の内容は以下のとおりです。

I 学部・学科の増設等変更計画

1 大阪産業大学・同短期大学部

- (1) 新学部設置（工学部改編に伴う学部増設）【平成24年度開設予定】
デザイン工学部 情報システム学科、建築・環境デザイン学科を設置する。
- (2) 既設学部・学科改編案の策定
魅力ある学園の構築に向け、引き続き学部・学科の改編を進める。

II 教育・研究等における重点分野

1 大阪産業大学・同短期大学部

<教育>

- (1) 離学者数を減らす取り組み
 - ア 離学者の実態と離学の原因を分析する。離学者対策を関係部署が責任を持って実施し、その知見とノウハウを全学で共有する。
 - イ 入学前教育、初年次教育を充実させるため、既存の各組織の役割分担を整理し、有機的な連携を強化する。
 - ウ 学生と教員・事務職員の対話を密にし、学生への支援体制を強化する。
 - エ 留年生との連絡を途絶させないようにする。
 - オ 学生の精神的なケアを充実させる。
- (2) 高大連携教育の推進
 - ア 高校生のキャンパス見学、体験学習を推進する。大学側から高校への出張講義を増やす。
 - イ 高大連携に関して、大学との協定高校を増やす。
 - ウ 学生、保護者、出身高校の担任教員、学部教員の四者面談をより充実させる。特に大阪産業大学附属高等学校との連携を強める。
- (3) キャリア教育の充実
 - ア 各学部にキャリア教育関連科目を導入する。
 - イ 基礎教養、専門的教養、社会的教養を深めるため、各学年ごとにきめ細かいプログラムを充実させる。
- (4) 就職支援の強化
 - ア キャリアセンターの役割を見直す。キャリア教育と就職支援の二つの機能の整理を行いつつ、キャリアセンターの就職支援策をさらに充実させる。

- イ 企業合同説明会の開催の頻度を高める。
- ウ 就職希望者の意識を高める施策を講じる。
- エ キャリアカウンセリングを充実させる。
- オ 就職先の幅を広げるため、本学卒業生社長との情報交換会を始めとして、企業との情報交換を積極的に進める。

(5) 魅力ある学部作り

- ア 工学部等の学部再編を検討し、志願者にとって魅力があり、社会貢献できる人材育成を行う学部を目指す。
- イ 総合教育科目と専門科目、フィールド教育科目の整合性を保てる学部の教育課程作りを検討する。

(6) 参加学生を増やすプロジェクト共育

- ア 導入5年目を迎えるプロジェクト共育の社会的評価は高い。しかし、予算が膨大な割には参加する学生数が少ないことから、この隘路を打開する。
- イ プロジェクト共育の単位化の試みも検討する。

(7) 大学品質保証システムの確立

- ア 教学改革のシステム作りを目指す。
- イ 平成24年度の大学基準協会の認証評価を受けるため、学内の自己点検・評価の体制と文書作成に全力で取り組む。

<研究>

(1) 先端研究の推進（文部科学省の「私立大学学術研究高度化推進事業」の推進）

- ア 事業名：社会連携研究推進事業（5年目／5年事業）

【プロジェクト名】新たな残留有機汚染物のリスク低減を目指した地域環境の創生とゼロエミッション処理技術の開発

- イ 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」への新規申請（予定）
工学部から2件、経済学部（アジア共同体研究センター）から1件を申請予定

(2) 文部科学省科学研究費補助金の獲得推進

独創的・先駆的な学術研究を行うため、必要な助成金の獲得に注力

(3) 先端の委託研究等の推進

事業名：おおさかFCV（燃料電池自動車）推進事業
水素エネルギー社会実証事業の研究

- (4) 大学間連携研究の推進
他大学との協定による連携研究の募集・研究の推進
- (5) 先端研究発表会等の開催
 - ア 研究成果発表会
 - イ 公開講座（市民講座、実践講座、科学研究費補助金研究成果発表会他）
 - ウ イノベーションジャパンを始めとする大学見本市や産業展への出展
- (6) 産学官地域連携の促進と技術移転
 - ア 地域との連携
だいたい産業活性化センター、大東市産学官連携事業推進委員会、大東市3者連携協議会、大東市地域商店街活性化事業、大東市名物選定事業、東大阪“ものづくり観光”活性化プロジェクト協議会、東大阪市産官学交流事務局会議、東大阪市大学連絡協議会、東大阪産業展実行委員会等への参画
 - イ 企業との連携と産学官連携コーディネーターの活用
技術相談オフィスの開設（クリエーション・コア東大阪）、受託研究・共同研究の推進、知的財産管理体制強化等
 - ウ 地域の金融機関との連携（協定金融機関：南都銀行、大阪東信用金庫）
 - エ Wellness2008 を活用した地域のスポーツ健康活動（いきいき大東スポーツクラブ等）及び企業からの受託研究

2 大阪産業大学孔子学院

<教育>

大阪産業大学孔子学院にとって平成22年度は、着実に中国語講座と中国文化・語学・経済に関する講演会の参加者数を増加させることができた。

平成23年度は、開設5年目を迎え、昨年度の実績を踏まえて本来の孔子学院として期待されている以下の事業を行い、こうした諸活動を通じて日中交流の絆を深めるとともに、大阪産業大学の社会的貢献をアピールする。

- (1) 中国語の各種教育、研修の実施
 - ア 入門・初級・中級・ビジネス中国語の各講座を実施・運営する。
 - イ 上海外国語大学への夏期中国語研修を実施する。
 - ウ 大学及び高校の中国語教師を対象として、中国語教師養成講座を開講する。
- (2) 中国文化・言語・経済に係わる講演会及びシンポジウムの実施

- ア 中国文化講演会：上海に関する中国文化の講演会を企画・実施する。
- イ 中国語学講演会：中国語の専門家を招聘して語学講演会を企画・実施する。
- ウ 中国経済講演会：中国経済の専門家を招聘して経済講演会を企画・実施する。

(3) 中国文化に関わる文化イベントの開催

- ア 春節祭の開催：孔子学院の講座受講生及び本学の学生・留学生を対象として、春節祭を開催する。
- イ スピーチコンテストの実施支援：大学生を対象とした中国語スピーチコンテスト（漢語橋）を駐大阪中国領事館と上海外国語大学との共催で開催する。また、高校生を対象とした中国語スピーチコンテストの開催を支援する。

(4) 漢語水平考試（HSK）の実施・運営

- ア 2011年度漢語水平考試（HSK）を実施支援する。
- イ HSK試験対策講座を開講し、HSK試験の普及を支援する。

(5) 日中交流のためのイベントの実施

- ア 日中交流特別研修を上海外国語大学との共催で実施する。
- イ 中国語教師交流会を駐大阪中国領事館との共催で開催する。

3 大阪産業大学附属中・高等学校

<教育>

(1) 中学校

- ア 本校独自カリキュラムを確立する。
 - 中学1、2年の2年間で「基礎力養成期」として位置付け、中学課程の履修内容の習得に努める。
 - 中学3年の1年間は、生徒の希望により、附属高校に進学するため、効率的な学習が可能な「中高連携コース」と他の高校や系列の大阪桐蔭高等学校に進学するための「3年受験コース」に分かれる。
- イ 生徒・保護者の期待に応える（満足度を上げる）。
 - 教員の質的向上、特に熱心で面倒見の良い教員を育成する。
 - 入学時の期待に応じて、卒業時の満足につなげていく。（入口より出口）
- ウ 重点教育内容
 - 「英語が強い学校」にする。学校を挙げて、実用英語検定等の資格検定試験を積極的に導入する。
 - 「数学・理科」教育を充実させ、将来、理工系、医歯薬系の進学者が増えてい

く教育環境をつくる。

(2) 高等学校

ア 生徒・保護者の期待に応える。

設置する普通、国際の各科、コース（スポーツ、進学、特進の各コース）の特色を十分に活かした教育を実践する。すなわち生徒、保護者の要望に応え、夢＝目標の実現に努める。

イ 大阪産業大学との高大連携教育を推進する。

○ 産大進学コースの設置、入学前教育の充実、出張講義、卒業生への指導等を推進する。

○ 卒業生の半数（約300名）を産大に進学させる。

ウ 退学者を減らす対策に取り組む。

入学前、受験前から本校の特色を理解させ、3年間の学校生活をイメージさせることから始め、入学後は生徒、保護者との対話を重視し、学校生活のあり方について情報交換を徹底する。

エ クラブ活動の充実と指導の徹底を図る。

○ 「真の文武両道の学校」を目指す。

○ 強化指定クラブ（硬式野球部、テニス部、サッカー部、ラグビー部、アメリカンフットボール部、柔道部、バレーボール部）は、「全国大会出場」を狙う。

○ 生徒が活気に満ち、充実した学校生活が送れるようにする。

○ 既存のクラブだけではなく、個人競技等、一芸に秀でた生徒を収容するコース、クラスの設置を検討する。

4. 大阪桐蔭中・高等学校

<教育>

(1) 生徒・保護者の期待に応える学校運営

平成23年度は、平成22年度より生徒数が増加する見込みである。また、在学中の生徒に対する教育の重点分野は、個々の生徒・保護者が所期の目的を果たし、満足して卒業していただくことに尽きる。

そのため、カリキュラムのより一層の充実と指導を徹底し、より高いレベルでの大学進学実績の安定的な向上を目指す。

(2) 体育館の建設

平成24年度から中学校、平成25年度から高等学校で体育の授業において「武道」が必修となることもあり、懸案であった体育館の建設に着手し、早期の完成を目指す。

Ⅲ 学生・生徒等の募集計画

1 大阪産業大学・同短期大学部

(1) 入試制度の充実

本学は様々な入試制度を導入しているが、次年度は受験生の質の維持・向上を目指す。そのため、競合大学の選考方法や高校進路関係者の意見を総合的に勘案し、種々検討を行う。具体的には次のとおりである。

ア AO入試によるコース制の充実

イ 公募推薦前期・後期入試（実業科系公募推薦を含む）の試験科目及び選考方法

ウ 地方入試会場の再点検

エ 留学生入試

オ 新学部の入試制度

(2) 経済的支援

平成18年度から導入している大学入試センター試験利用入試前期日程及び一般前期入試の成績優秀者に対する授業料を免除（減免）する制度を継続させ、優秀な学生の獲得を目指す。

また、12月までの公募推薦前期・後期入試の成績優秀者に対する授業料減免制度を検討する。

(3) 受験生及び高校に対する入試広報の強化

ア 高校内説明会（出張講義含む）の積極的参加

従来、3年生を対象とした、本学の概要や入試制度の説明を行う高校内説明会を中心に参加していたが、最近は、1・2年生を対象とした分野別・職業別説明会や総合説明会にも積極的に参加している。

より多くの高校生と接することができる説明会等の機会を通じて直接本学をアピールし、オープンキャンパスや大学見学会への参加も促し、本学の受験につなげる。

イ 重点広報地域

関西地区の高校については、担当者を決め定期的に訪問して広報を行っている。

また、中・四国及び山陰地方を関西地区以外の重点広報地域とし、高校訪問や入試説明会を積極的に行い、志願者獲得を目指す。

ウ オープンキャンパスの充実

受験生が受験大学を決定する要素として、保護者からのアドバイス、就職状況、経済的支援、大学の雰囲気等が大きな影響を及ぼす。そのため、教職員、学生スタッフの受験生及び保護者に対する対応を正確かつ丁寧に行うとともに、オープンキ

キャンパスの内容の充実を図る。

エ 高校単独の大学キャンパス見学会への積極的受入

各高校が単独で大学キャンパスを見学したいという要望が年々増加しており、その内容の充実を図り、積極的にこれを受け入れる。

(4) 附属高校との連携強化

高大連携講義や大学見学会を実施しているが、大学を身近に感じることができるように、大阪産業大学附属高等学校生徒の体験学習を積極的に実施する。また、大阪産業大学附属高等学校体育系クラブの有力選手を確保できるように、スポーツ分野での高大連携システムの構築を強固なものにする。

なお、大阪桐蔭高等学校に対しても、同内容を可能な範囲で実施する。

(5) 入試w e bサイトの充実

最近の受験生の大学情報の入手手段が、W e bサイト（モバイルを含む）によるものが増加している。特に高校生の携帯電話は、必須アイテムとなっているので、本学の情報発信のツールとして、その充実に努める。

2. 大阪産業大学附属中・高等学校

(1) 中学校

ア 3クラス・120名の生徒募集を視野に入れながら、まずは募集定員（80名）を確保する。

イ 私立中学受験の募集対策は「塾」対策なくしてあり得ないことから、次のことを実施する。

○ 塾訪問による、新規開拓だけではない信頼関係を構築する地道な働きかけ

○ 塾、新聞社等主催の各種説明会への積極的な参加

ウ 学校広告、募集広告を厳選し、効果的な広報活動を行う。

エ 来年度の募集から、高校とは別に学校案内などの「募集グッズ」を早期に作成し、早期の募集活動を展開する。

(2) 高等学校

ア 外部募集定員は、593名を超える外部募集人員を確保し、さらに、併設中学校からの内部進学者50名（見込み）を含めて1学年700名の入学者を得る。

【入学者数の推移】

19年度－660人、20年度－695人、21年度－717人、

22年度－760人、23年度－（700）人

イ 渉外活動の充実を図り、特に中学校への積極的な訪問を行い、進路指導担当者に本校教育の特色について理解を求める。

ウ 大阪市内を中心とする近隣地域への広報活動を展開し、地元地域から評価される学校づくりを行う。

3 大阪桐蔭中・高等学校

(1) 募集人員

中学校は、平成23年度も生徒募集人員を225名とし、高等学校は、外部募集人員を432名とする。

(2) 募集方針

本年度より、国及び大阪府を始めとする府県の就学支援金等が交付され、特に大阪府では、平成23年度は平成22年度と比べ、さらに優遇される予定で、全般的に私学志向者数の増加が見込まれる。

一方、本校と競合する公立伝統校（北野・茨木・大手前・四条畷・天王寺等）はブランド力もあり、加えて平成23年度からはエリート養成を掲げて文理学科を設け、府下全域から生徒募集を開始することとなり、これに打ち勝つには、ここ3～4年の大阪桐蔭独特の教育により、大きな成果を上げることが必要である。

本校では、生徒に対する面倒見の良さや、優秀な教師陣、大学合格実績をアピールポイントとして、中高一貫生及び高校入学生を含め、1学年約700名以上を目指して募集活動を行う。

なお、生徒募集にあたっては、中・高共に学校を「知ってもらう」「理解してもらう」ことを重点として、中学校、塾への訪問、説明会への参加・各種媒体を通じての効果的な広報等、積極的な募集活動を行う。

IV 校地・校舎等整備計画

1 学校法人大阪産業大学

整備項目等	金額 (千円)	備 考
法人用地買収	500,000	売買諸費用は含まない
総 額	500,000	

2 大阪産業大学・同短期大学部

整備項目等	金額 (千円)	備 考
総合図書館 電動書架設置 (4階)	125,000	設計管理費は含まない
第Ⅱ期公共下水接続工事 (中央キャンパス)	58,000	設計管理費は含まない 第Ⅱ期総工費：233,000千円
第Ⅲ期公共下水接続工事 (東部キャンパス鍋田川南側)	50,000	設計管理費は含まない 第Ⅲ期総工費：100,000千円
2号館耐震補強工事	270,000	設計管理費は含まない
13号館改修工事	104,500	設計管理費は含まない
総 額	607,500	

3 大阪産業大学附属中・高等学校

整備項目等	金額 (千円)	備 考
耐震工事 (本館西)	120,000	総工費：329,000千円
総 額	120,000	

4 大阪桐蔭中・高等学校

整備項目等	金額 (千円)	備 考
体育館建設	900,000	設計管理費、埋蔵文化財調査費他は 含まない 総工費：1,500,000千円
総 額	900,000	

以 上